

## 台湾「アーティスト・イン・レジデンス」レポート

田中 哲也さん（通信 陶芸コース 2001 年度卒業）



2017年1月23日から3月31日までの約2ヶ月間、台湾にある新北市立鶯歌陶瓷博物館の招待を受け、作陶をはじめレクチャーやワークショップの開催、ギャラリーでの個展など、現地に滞在して活動する機会がありました。博物館では年に15名ほどの作家を招待しており、光栄にも私はその内の1人選ばれたという次第です。

作品は、焼き上がると透ける陶土に蛍光顔料を施しLED照明を当てた「透ける器」、在学中から取り組んでいる「鉄と陶器を組み合わせたもの」、「新しい感覚の信楽焼き」を三本柱としました。

現地で作陶した「透ける器」作品は、陶芸家しかできない現代美術とは何かを考え、器自体に光や音、時間など、カタチのないものや目に見えないものを捉えた「光を盛る器」というのが制作コンセプトです。

もう1つの「鉄と陶器を組み合わせた」作品は、金属やボルト&ナットで繋げていくことで、窯の大きさの制限から解放された今までにない陶芸を目指したものです。



制作した作品は博物館に寄贈するとともに、3月の最終週には台北市内のギャラリーにて、台湾初の個展「田中哲也の全(田中哲也の全て)」を行いました。個展開催にあたっては、なにが受け入れられるかわかりませんでした。日本から送った「新しい感覚の信楽焼き」作品と合わせ、自分の持っているスタイルをすべて見せることにしました。

ギャラリーのオーナーをはじめ台湾には親日家が多いせいか、私の作品についても現地の陶芸作家から一般の方々まで、熱心かつ興味をもって受け入れられたようでした。

これまで闇雲に作家活動を続けてきた面がありましたが、今回の滞在と個展を通して、「少しばやけた輪郭がクリアになった」と自分自身で感じています。自分の作陶の方向性が解り始めたところなのです。



新北市立鶯歌陶瓷博物館  
<http://jp.ceramics.ntpc.gov.tw>

f 田中哲也 Facebook  
<https://www.facebook.com/tetsuya.tanaka.756>

### 陶芸同窓会からのお知らせ①

#### 会報のメール配信登録にご協力ください。

陶芸同窓会では、コスト削減とインターネットを活かした最新情報のお届けを目指し、これまでの郵送での会報発行(年1回)から、Eメールでの会報メール配信(最新情報・随時)を推し進めています。まだメールアドレスの登録がお済みでない会員の方はこちらからご登録ください。

件名「メール配信希望」として、①氏名(フリガナ) ②卒業年度(通学か通信か明記)を陶芸同窓会まで送信ください。

陶芸同窓会メール: [info@kuad-tougei.net](mailto:info@kuad-tougei.net) 「登録完了メール」を返信いたします。必ずご確認ください。

または、陶芸同窓会ホームページの「会報メールのメールアドレス登録」ページからご登録ください。

<https://kuad-tougei.net/contact-qa/mailaddress-form/>

配信エラーを防ぐため、予め、陶芸同窓会からのメールを受信できるように迷惑メールフィルターなどの設定をご確認ください。

代表メールアドレス  
[info@kuad-tougei.net](mailto:info@kuad-tougei.net)  
会報配信専用メールアドレス  
[newsletter@kuad-tougei.net](mailto:newsletter@kuad-tougei.net)

DS  
**Y OUT**  
 to town with  
 g their best

My pieces have a meticulous finish and not the slightest trace of decoration, always aiming for a technically impeccable result and an aesthetic that is simple and seductive

Aur Van Hoey, a Belgium-based artist



I am really looking forward to showing my work in India for the first time and to communicate with Indian people interested in pottery

Regina Heinz, a UK-based artist



**INATUR**  
 Natural Skin Care

WINTER OFFER  
 20% Savings on Body Butter, Creams & Lotions

gan • Safe On Skin • No Sulphates No Parabens Globally • PH. Balanced • Product Of India

Visit us at:  
 1, Ground Floor, DLF Place, Saket, New Delhi  
 Tel: 91 11 40508131 | www.inatur.in

**mplismile**  
 Dental Specialists

KALRA (M.D.S) DONTIST  
 DR PRIYANKA K. KALRA (M.D.S) ENDODONTIST

of the art professionally managed Multi  
 ty Dental Care Clinic. Services Offered:

- Teeth Whitening
- Veneers /Laminates
- Tooth Coloured Fillings
- CERAMIC Crowns
- Root Canal Treatment
- Orthodontic Braces
- Implant Dentures
- Oral Surgery
- Periodontal Treatment
- Pediatric Dentistry
- Emergency Services

ver Ground Floor, Anand Niketan, Benito Juarez Marg  
 Campus Road), Near Springdales School, New Delhi.  
 Phone: 011 - 46124745, 9810054111  
 Branch: 30/42 Punjabi Bagh West Ph - 011-42466940  
 mplismile.com FIND US ON FACEBOOK

Rhema Mukti Baxter  
 rhema.baxter@hindustantimes.com

The Delhi Blue Pottery Trust will be showcasing artworks of 24 eminent ceramists from 12 countries across the world. Representing Belgium, Ireland, Russia, Korea, Spain, Czech Republic, UK, USA, Japan, Germany, Singapore, Australia and Netherlands, this event will consist of an exhibition, seminar and workshops spread over two days, featuring presentations, slideshows and demonstrations.

Besides the sheer diversity of ceramics on display, the event also offers a unique opportunity for interaction with each of the artists, as they will be present at the show.

The event hopes to promote a sense of collaboration and an atmosphere of mutual learning by enabling Indian artists and visitors to study the inspirations, styles, challenges and obstacles of

their international counterparts, as well as gain an insight into their cultural and social backgrounds. Jane Jermyn, who is taking the Irish Ceramic Artists workshop, shares her techniques with our readers.

"The workshop I will lead is in the obvara firing technique -- a technique I learned in Belarus, which is purely decorative and gives a very organic effect."

"We will discuss ways to add colour with slips, oxides and various firing possibilities and the use of cold glaze," says Martin McWilliam, a German artist, who is taking a class on shifts of perspective in jars and bowls.

McWilliam will give demos and slide talks to further illustrate the range of building big. Students will be asked to bring a model or sketch of an individual project and McWilliam will revise and assist throughout the process of building.

"When making the work for this exhibition, I was

mindful of the wonderful array of colours that you see in images of India and the inspiring architecture. I have attempted to capture some of these influences in my work," says Ted Secombe, an Australian artist, who is excited to be visiting India for the first time.

The event hopes to be an unparalleled opportunity for the exchange of information and ideas between many nations.



I'm trying approach to contemporary art from ceramic and will introduce my works, new technology and new material in the conclave

Tetsuya Tanaka, a Japanese ceramic artist



Catch it live

WHAT: International Ceramic Conclave, Delhi - 2014  
 WHERE: Visual Art Gallery, India Habitat Centre, Lodhi Road  
 WHEN: November 25 - 30; TIMINGS: 11am

NEAREST METRO STATION: Jawaharlal Nehru station on Violet line



A few of the art pieces which would be on display at the event

守山・野洲 地域みっちゃく生活情報誌 滋賀県で334,175部(6誌)発行しています。 総発行部数44,250部発行/無料各戸配布42,947部/無料設置1,303部

# モリス

*Morris*

# 5

2014.MAY  
VOL.26

名証上場 [証券コード:2139]

巻頭特集 | セラミックアーティスト 田中哲也  
陶芸家が表す現代アート

◎ウワサのお店が勢ぞろい

ALL口コミグルメ

◎心を込めて感謝の気持ちを伝える 母の日ギフト

スマートフォン版新登場!  
さらに使いやすくなりました!

モリス掲載店が  
ケータイ&スマホで探せる!

モリスモリス  
フリモ



フリモ会員数 100,390名  
(2014.4.18現在)

セラミックアーティスト

## 田中哲也

# 陶芸家が表す現代アート

陶と金属を合わせた作品。どこか懐かしいようなイメージが漂う

滋賀県で生まれ、工房・自宅ギャラリーを

野洲市内に構える陶芸家・田中哲也さん。

陶と金属を合わせた独自の作風で、国内はもとより海外でも活躍しています。作陶に対する姿勢と作品の魅力に迫ります。

### 形のないものを盛る器

大学で経営学を学び、卒業後は広告会社に勤めていた田中哲也さん。「一生サラリーマンを続けると、自分でも思っていた」と話します。美術の勉強は会社の倒産をきっかけに始めました。自分の手で直接触れて制作できる分野に興味をわき、陶芸の道へ足を踏み入れます。

金属のような質感に焼きあがる釉薬と出合い、主に陶とポルトやナットなどを合わせたシリーズを展開。野洲図

書館のエントランスで、田中さんの作品「空(〇〇〇)ー近未来ノスタルジー」を目にした人も多いのではないのでしょうか。

近年は見えないもの、形のないものを盛る作品を「アートとしての器」と題して模索しています。2010年、音を盛る器「響器(HIBIKI)」を制作しました。陶とマイク、スピーカー、センサーで、室内にいながら屋外の音が耳元に飛び込んでくる作品です。

2012年には、「輝器(KAGAY

AKI)」を発表。信楽窯試験場で

開発された、焼成すると半透明になる信楽透土で器を作り、蛍光塗料を低温で焼き付けます。その器に照明をあて、かつ内部に光源を入れ、光を盛りました。電源は太陽電池で「還元・再生のプロセスにより生まれる光が、人々の魂を浄化させるようなものとなれば」との思いが込められています。

「いずれは、時を盛る器を制作したいです」と次なる目標を教えてくださいました。



セラミックアーティスト  
田中哲也  
Tetsuya Tanaka

この地域では、野洲図書館のほか、滋賀農業公園ブルーメの丘(日野町)、かわらミュージアム(近江八幡市)でも田中さんの作品をみることができます



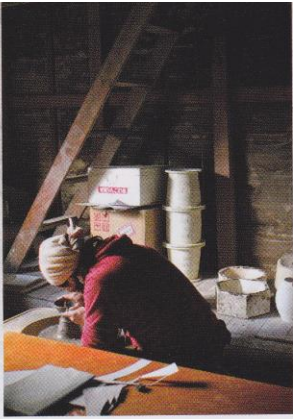
## 自由な楽しみ方をして

古い飛行機のようにも、繭や種のうに生命力を秘めた形にもみえる田中さんの作品。特に何かを象徴して形を作っているのではなく、タイトルも作品が完成してからつけています。

「これまでにない新しいものを」という意識で続けてきましたが、思いがけず「懐かしい」という感想を多く耳にしました。そこで自身の作品が、子どもの頃に空想をしてはノートに描いていた形に似ていることに気づきます。「空(QOO)ー近未来ノスタルジー」というタイトルは、そのことを反映したものです。

フォルムや質感が少年の心をくすぐるのか、男性ファンが多いそう。子どもにも大人気で「展示作品に触ったり、

左/納屋を改造した工房で陶に打ち込む田中さん 下/陶土には信楽産の土を使用、磁土には瀬戸市の土を使用しています



中にはよじ登る子もいて大変です」と苦笑します。

現代アートは理解が難しいものだと思われがちです。しかし田中さんは「自分なりの制作コンセプトはありますが、観る人がそれぞれストーリーを作って、違う場所へたどり着いても構わないと思っています」と、自由な楽しみ方をすすめています。

美しい対称形を作り出すために、作品と対峙する時間は自ずと長くなります。陶芸家として施す、ろくろ成形という伝統工芸の技術と、丁寧な手仕事が生み出す現代アート。今日までのアートとクラフトの枠組みや価値観を超えた理想形を目指し、今日も田中さんは作陶に励みます。

## 地元に残る活動を

田中さんは個展やグループ展の傍ら、「越後・妻有アートトリエンナーレ」や「神戸ビエンナーレ」などのアートイベントにも出展しています。ニューヨーク、クローアチア、オーストリア、韓国など海外での展示も精力的に行ってきました。中でも、地元で行われる「BIWAKOビエンナーレ」の出展には特別な思い入れがあります。

9月から開催されるBIWAKOビエンナーレには、2007年の初参加以降、毎年出展。今回も参加予定です。「搬入搬出、展示作業のほとんどを作家で行わなければならない、苦勞も多々ありますが、ホームでの活動だからこそ大切にしたい」と田中さん。そこでしかできない表現を、との考えから、場所をみて制作にあたるようにしてい

ます。初めて参加した年は民家の2階を会場に選び、現場を下見して自然光での展示に決定。作品を景色の一つとしてじっくり楽しんでもらえるよう、オリジナルの茶道具を作って「お茶会ワークショップ」を開きました。「BIWAKOビエンナーレには、『もう飽きた』と言われるくらい出展したいです」と冗談を交じりにも、地元の活動に対するこだわりをうかがわせま

また、滋賀県内の小学校で、陶芸体験のサポートを担当。そのほか月に2回、自宅工房で陶芸教室を開いています。昨年は「兵主大社ライトアップ2013」に「輝器」を出展し、兵主大社氏子参集殿で個展を開催。2018年の兵主大社遷宮は、作品を奉納しま

す。「陶芸は日本のお家芸。海外でも、驚きをもって迎えられることが多くあります。地元に残る活動に、もう片足は他地域や海外での活動に向けたたいです」とこれからの展望を話します。

### INFORMAION

#### 第8回 信楽 作家市

日時/5月2日(金)~5日(月+祝) 9時~17時  
会場/陶芸の森 太陽の広場  
陶芸を中心にクラフト系のブースが並び作家市田中さんも出展します

#### BIWAKOビエンナーレ2014 泡沫~UTAKATA

会期/9月13日(土)~11月9日(日) ※木曜休み  
会場/近江八幡市、大津市



### 響器 HIBIKI

2010年、BIWAKOビエンナーレの展示。聴覚が急に広がったような覚醒感覚を疑似体験させ、観る者を非日常に誘います



### 茶器 CHAKI

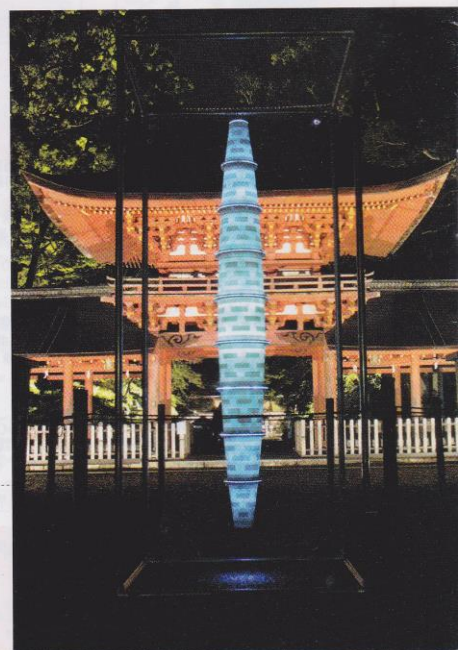
2007年、BIWAKOビエンナーレ「お茶会ワークショップ」で使用された茶道具



### 輝器 KAGAYAKI

器をそばに置いておきたいと思ってももらえるようなものを制作したいと田中さん。石膏型に柔らかな土を流しこむ泥漿鋳込み法で作られており、和洋問わず料理に合わせやすいプレーンな器です

昨年の兵主大社ライトアップの様子。ワイヤーで空中に浮かんでいるようにしつづらえた



# POLISH<sup>plus</sup> 3

[パリッシュプラス+]

shiga パリッシュ+ 滋賀版 shiga life style free paper mar.2007

パリッシュ+アーティストプレビュー < <http://epolish.net/> でも紹介しています。 > 滋賀には魅力的なアーティストがたくさんいる! この素敵な事実をみんなに伝えたい、そんな思いで始めました。

h  
ロコ  
平成)9  
有限会  
tel. 0  
\*本誌  
してい

パリッシュ+次回発行日  
お問い合わせ・お申し込み

古紙配合率100%再生紙を使  
作成しています。有限会社

自分の道をひらくのは、自分。  
似た物のない、独創の陶芸アーティスト。



「資源には限りがあります。陶芸に使う粘土もあと100年採れるかどうか分かりません。だからいい加減なものを作れません。陶磁器は一度作ると、何千年ともちます。腐らないのです」。

伝統的な青磁、白磁の器をはじめ、陶をポルトで連結させるという過去に例のないオブジェ作品を発表し、陶芸界で若手作家として注目されている田中哲也さん(36歳)。大学の経営学を卒業後、広告代理店に就職。しかし、バブル経済の崩壊により会社が倒産。そのまま他社に移って業界に残る選択肢もあったが、この時を機に幼少の頃から興味があった芸術の道に進むことを決意。「アルバイトをしながらさそく通信教育で学芸員の資格を取りましたが、就職先がなかったんです。それなら自分で絵を描いて食べていける画家になろうと、今度は美術短大の通信教育で絵画を学びました。でも絵では食べていけないと分かって、次に造形大学の通信教育で陶芸を学びました。これが肌に合ったんです」。

思い立ったら行動する、その姿勢で自らの道を切り開いてきた田中さん。昨年2006年にはニューヨークへ行き、「ミュージアムオブアート&デザイン」の館長デビットマクファーデン氏に会い、作品を見せる。その結果、田中さんの作品はミュージアムの所蔵品となった。同時に、今後の活躍に対し高い期待の言葉を贈られた。「僕は有名な陶芸家の二世でもないし、家が裕福なわけでもない。だから、自分で自分をプロデュースしていかなければなりません。肩書きや経歴ではなく、自分の作る物そのものの力を見てほしいですね」。

2003年から、陶をポルトで連結させる作品「空 QOO」シリーズを発表。子供の頃に空想した、空中に浮かぶ飛行物体、その頃の記憶が作品のバックボーンだとか。「オブジェなどの見せる作品では、好奇心をくすぐるような、見た人を驚かせたり、驚かせたりする作品を作りたいですね。陶器など実際に使う物でも、使い手の想像力をかき立てるような、使い手にとって自由度の高い作品を作りたいと思います」。

これまで、自分の気持ちの向かうままに、自由に自分の道を生きてきた田中さん。やはり生み出される作品も、使い手の自由な発想を引き出す、軽やかな大らかに満ちていた。数多くの賞を受賞し、高い評価を得た今でも、陶芸作家として生活するのは決して楽ではないという。それでも田中さんは言う。「この道で生きていくと決めました。後戻りはしません」。この決意から、また滋賀が世界へ誇るアーティストが生まれることを信じている。

POLISH ARTIST PREVIEW

陶芸アーティスト 田中哲也さん

**田中 哲也** プロフィール

1970 滋賀県野洲市生まれ  
2005 第9回東京・ニューヨーク姉妹都市交流陶芸コンテスト 優勝  
2005 2005陶芸財団展 陶芸財団理事長賞受賞  
2006 第10回東京・ニューヨーク姉妹都市交流陶芸コンテスト 3位  
他 日本陶芸展、朝日陶芸展入選など

◆ 2007年 展覧会予定

4/28~5/6 「BOLT-AGE 田中哲也、嶋田健児陶展」  
ブルーメの丘美術館(日野町)

8/28~9/2 「第6回泥酔舎陶展」  
ギャラリーマロニエ(京都市)

9/29~11/18 BIWAKOビエンナーレ  
近江八幡市周辺  
<http://www.energyfield.org/>





●工房、ギャラリー  
滋賀県野洲市木部  
tel 090-1907-1068  
e-mail  
tgallery\_studio@yahoo.co.jp  
<http://www.art-shiga.net/>  
(あーどおっとしが田中哲也でサイト内検索)

読者プレゼント

田中 哲也さんより  
一輪挿し 3名様にプレゼント!  
※応募方法はP.15をご覧ください。





LET'S

WARMS  
[www.warm-s.co](http://www.warm-s.co)



株式会社プラネット リビ  
滋賀県彦根市柳川町212-フ  
tel.0749-43-8200 fax